

参画と協働のチャンネル導入状況の検証イメージ

1. 趣旨

主な施策・事業について、参画と協働の要素（ともに知る、ともに考える、ともに取り組む、ともに確かめる）が適切に組み込まれたかどうか、また、条例施行前後で参画と協働の手法・チャンネルの活用状況の変化を検証する。

2. 検証する内容

(1) 事業ごとに参画と協働のどのような手法・チャンネルを導入しているか（様式1）

(2) 手法・チャンネルの導入にあたり、どのような工夫をし、その効果はどうか（様式2）

「ともに知る」「ともに考える」「ともに取り組む」「ともに確かめる」から記載する。

様式1で数字を記入した項目をピックアップする。

参画と協働を推進するために、具体的にどのように内容充実、工夫をしているか、その結果、どのような成果があったかを記載する。

(様式2)

事業名		〇〇〇〇〇	
手法・チャンネル		充実・工夫している点とその成果	
ともに知る	情報提供	広報	・ 広報する媒体を増やした 地域づくり活動に取り組む団体等に協力してもらって、積極的に広報に努めた
	広聴	アンケート	・ 多くの人の意見を得るため、インターネットを活用して実施した
ともに考える	意見交換	フォーラム	・ 特に若い世代の参加を促進した ・ 発言しやすい雰囲気をつくるために、・・・するなど、グループ分けを工夫した
		ワ・クショップ	・ 多様な世代の参画を促すため小学生を対象に実施した
ともに取り組む	事業の企画・協働	実行委員会	・ 実行委員会が活動しやすいよう、委員会を立ち上げる前から県民と行政が運営方法を協議した
	ネットワークづくり	連携	・ 交流会を開催し、連携のきっかけづくりに取り組んだ
	担い手づくり	サポーター、会員制度	・ 若い世代の参画を促すため、大学生を対象とするサポーターを設けた ・ ...するなどサポーターの役割を拡充して協働した
ともに確かめる	報告会		・ 多くの人に参加してもらって自己評価を行い、その結果をホームページで広報した

